

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アイリスクラブ今林		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 30日		～ 2024年 12月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	2024年 11月 30日		～ 2024年 12月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	異年齢での集団による関わり	チーム分けで活動を行うときに、知識や力量等、公平になるように配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を気軽に伝えられるように、スタッフとの信頼関係を築き、周囲のみんなとも信頼関係が築けるように橋渡しをする。 自分とは違う思いがあることに気付けるように、スタッフが仲介に入る。
2	スタッフ間のコミュニケーション	朝礼、終礼時や、会議等で、話し合う機会を設けている。	個人の専門性を高めつつ、より細かい支援内容の話し合いを行っていく。
3	一人ひとりの子どもの様子・見立て・アセスメントに繋がる発言が多い	話し合いの機会を多くもつようしたり、話し合うテーマを絞って短時間でも話し合えるように時間配分をしている。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの様子や、スタッフのニーズに合わせて必要な話し合いができるように、テーマを随時考えていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ほとんどのスタッフがアイリスクラブ今林に携わって1年未満である	職員の入れ替わりが多く、情報共有が不足している。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者様のニーズや子どもたちの思いなど、個人ファイルを隅々まで見たり、送迎時に聞きとったことを情報共有したりして、一貫した支援ができるようにする。 チーム支援の課題を整理し、自己研鑽をしたり、必要な研修に参加したりする。
2	<ul style="list-style-type: none"> 視覚支援が少ない 個々に応じた細やかな支援が不十分である 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚教材が少ない。 個々の様子に応じた取り組みが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの様子に合わせて、視覚教材の購入、作成をする。 一人ひとりの特性や療育について、話し合いの時間を工夫する。
3	・専門職のスタッフがいない	・専門職のスタッフが少なく、配置される人数にも限りがある。	<ul style="list-style-type: none"> 日々自己研鑽、社内・社外の研修に参加する等、一人ひとりの専門性を高める。 専門職のスタッフに声をかけて、質問事項などを共有し、一緒に考える機会をもつ。